



PERFECT SERIES



PERFECT CERAMIC TOP G

水性 2 液形セラミックハイブリッド超高耐候超低汚染無機系塗料

パーフェクトセラミックトップ G

美しい
つや感

高い
耐久性

安心の
超低汚染性

防藻・
防かび性



NIPPON PAINT

ツヨク、
ウツクシク、
スマイヨク。

PERFECT CERAMIC TOP G

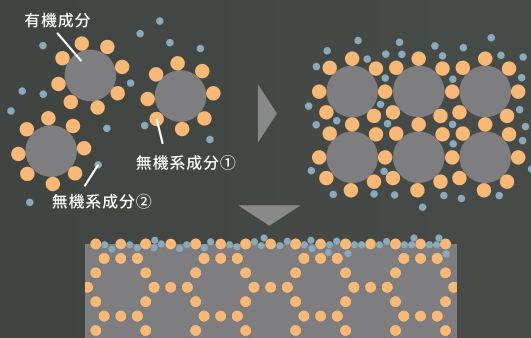
住まいの「美観」をまもり、「寿命」を延ばすハイグレード塗料
パーフェクトセラミックトップG

パーフェクトシリーズのラジカル制御技術とセラミックハイブリッド技術を融合。フッ素樹脂塗料を超える高耐候性、超低汚染性を誇るシリーズ最高峰の外壁用塗料です。

セラミックハイブリッド無機系塗料とは？

無機塗料は紫外線に強く、高い光沢と燃えにくさが特長ですがその反面、塗膜が割れやすいという性質がありました。そこで無機の硬い部分（無機系成分①）と有機の柔軟部分をハイブリッド化することで「微弾性」の性能が発揮されます。

さらに表層に配向した無機系成分②により、超低汚染性を発揮します。パーフェクトシリーズ究極の高耐久塗料が完成しました。



塗膜形成イメージ図

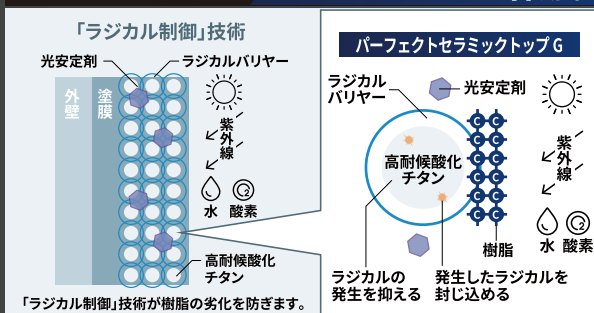
独自技術で紫外線から住まいをまもる、非常に優れた耐候性塗料

一般的な塗膜は、酸素や水とともに紫外線があたると顔料の主成分である酸化チタン内からラジカルが発生し、塗膜劣化を誘発します。そこで日本ペイントは、ラジカル発生を抑え、かつ発生したラジカルをバリアー内に封じ込める高耐候酸化チタンの活用技術を開発。さらに光安定剤の併用により、ダブル効果で優れた耐候性を発揮します。

● 上塗り塗料の耐候性のグレードレベル

塗料の耐候性には様々なグレードがありますが、ラジカル制御塗料は住まいを長持ちさせる品質・性能をコストパフォーマンス良く享受できるのが魅力です。パーフェクトセラミックトップGはフッ素を超える高耐候性。長期的に見て塗装回数が減り、お住まいのメンテナンス費用削減につながります。

パーフェクトセラミックトップG ラジカルバリアーと光安定剤によるW効果



▲ PERFECT SERIES
パーフェクトトップ
パーフェクトトッププロ
ファインパーフェクトトップ

PERFECT CERAMIC パーフェクトセラミックトップG



アクリル樹脂塗料



ウレタン樹脂塗料



シリコン樹脂塗料



ラジカル制御形高耐候性塗料



フッ素樹脂塗料



ハイブリッド無機系塗料

高耐候

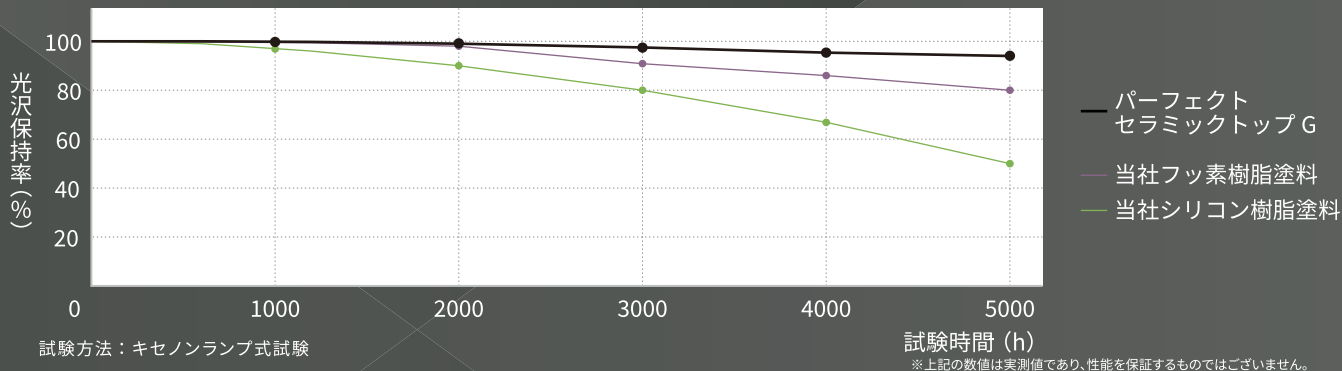


“6つの特長”で、外壁を美しくまもりま

1. 優れた耐候性

パーフェクトセラミックトップGは、促進耐候性試験において優れた耐候性を示しました。

促進耐候性試験



2. 美しいつや

パーフェクトセラミックトップGは、専用中塗りと上塗りの高いレベリング性により、つやが優れています。またつや有り・7分・5分・3分つや有り、およびつや消しと幅広く対応が可能です。

3. 超低汚染性

パーフェクトセラミックトップGは、「超低汚染性」(親水性機能)によって、建物外観に付着した汚れを雨とともに洗い流し、美観を維持することが可能です。

試験方法：当社規格による雨だれ強制汚染試験(6ヶ月経過)
試験条件：〈基材〉スレート(下塗り)水性カチオンシーラー透明(上塗り)各種上塗り

4. 燃えにくい

パーフェクトセラミックトップGは、無機の特長から燃えにくい塗膜になります。

5. 透湿性

透湿性があるため塗膜の膨れやはく離を抑制します。

6. 防藻・防かび機能

藻・かびの発生を抑制し、建物の美観と清潔な環境をまもりま。オプションで強力防かびタイプを選択することも可能です。

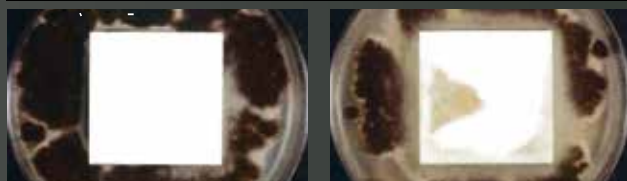
防藻性能試験結果(社内試験による)



パーフェクトセラミックトップG

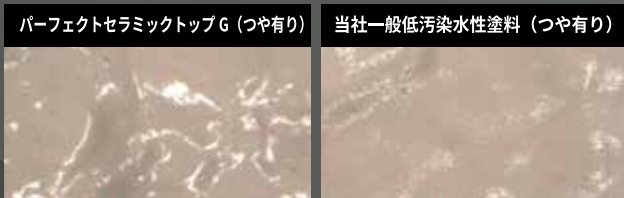
当社防藻機能なし 一般塗料

防かび性能試験結果(試験方法：JIS Z 2911 準拠)



パーフェクトセラミックトップG

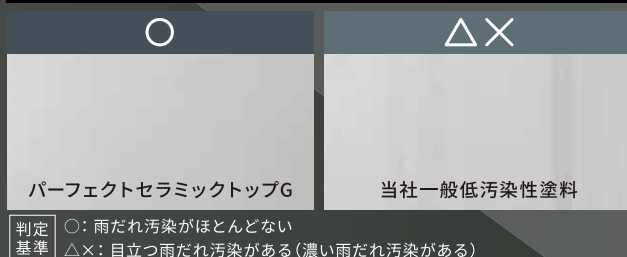
当社防かび機能なし 一般塗料



※上記はなみがた仕上げの塗膜画像です。仕様はパーフェクトファイラー+パーフェクトセラミックトップG中塗+セラミックトップG上塗です。

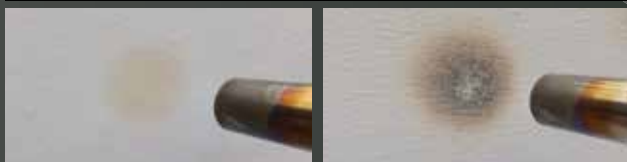
※上記はなみがた仕上げの塗膜画像です。

防汚性試験



判定基準 ○：雨だれ汚染がほとんどない
△×：目立つ雨だれ汚染がある(濃い雨だれ汚染がある)

トーチバーナーで5秒間燃焼した様子(約1,700℃)



パーフェクトセラミックトップGを塗装した試験体

当社一般低汚染性塗料

塗料性状・荷姿

塗料名	色相	つや	容量	ポットライフ
パーフェクトセラミックトップG	各色	つや有り、7分つや有り、5分つやあり、3分つや有り、つや消し	15kgセット(塗料14kg・硬化剤1kg)、4kgセット(塗料3.73kg・硬化剤0.27kg)	6時間以内(23℃)
パーフェクトセラミックトップG 中塗	各色	つや有り	15kg、4kg	—

適用下塗り塗料・適用下地

	適用下塗り塗料	適用下地
外 壁	パーフェクトフィラー パーフェクトサーフ	●モルタル面 ●窯業系サイディングボード ●コンクリート面 ●ALCパネル面
	水性パーフェクトシーラー ファインパーフェクトシーラー 1液ファインパーフェクトシーラー	●無機フッ素下地の高意匠サイディングボード (従来のモルタル、コンクリート面などにも塗装できます)
	パーフェクトプライマー	●付帯金属面 ●FRP ●木部 ●金属パネル外壁※1 ●亜鉛メッキ ●アルミ

※1 金属パネル外壁は、パネル全面にエンボスなどの凹凸模様のある金属サイディングに限ります。平滑(フラット)な面に塗装した場合には、塗り磨きむらなどの仕上がり不良に至る場合がありますのでご注意ください。

乾燥時間

	5~10℃	23℃	30℃
塗り重ね乾燥(中塗り)	8時間以上	3時間以上	2時間以上

※乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

標準塗装仕様(塗り替え)

●モルタル面、コンクリート面の塗り替えなど

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修処理	下地改修処理が必要な場合は、下地調整結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						
下地調整	ほこり、汚れを除去した後、サンドペーパー、ウエスなどで素地を調整する。						
下塗り	パーフェクトフィラー	1	0.20~0.45	4時間以上	水道水	3~8	ウールローラー
			0.50~0.90			1~5	砂骨ローラー
中塗り	パーフェクトセラミックトップG 中塗	1	0.14~0.17	3時間以上	水道水	5~10	はけ・ウールローラー・エアレススプレー
上塗り	パーフェクトセラミックトップG	1	0.14~0.17	—	水道水	5~10	はけ・ウールローラー・エアレススプレー

●サイディングボード、ALCパネル面の塗り替えなど

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地改修処理	下地改修処理が必要な場合は、下地調整結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						
下地調整	ほこり、汚れを除去した後、サンドペーパー、ウエスなどで素地を調整する。						
下塗り	パーフェクトサーフ	1	0.20~0.40	3時間以上	水道水	2~5	はけ・ウールローラー
中塗り	パーフェクトセラミックトップG 中塗	1	0.14~0.17	3時間以上	水道水	5~10	はけ・ウールローラー・エアレススプレー
上塗り	パーフェクトセラミックトップG	1	0.14~0.17	—	水道水	5~10	はけ・ウールローラー・エアレススプレー

※フッ素及び無機コーティングした窯業サイディングボードの場合はファインパーフェクトシーラーをご使用ください。

※ファインパーフェクトシーラーは夏場(高温下)では、硬化反応が著しく速まるため、中塗りを3日以内に塗り重ねてください。塗り重ね時間を過ぎると、中塗りとの密着性が悪くなります。

※その場合は、再度下塗りをするか、ペーパーをかけるなどしてください。

※上塗り材と専用中塗り材では、耐候性・低汚染性などに差があります。上塗り材との区別のため、中塗り材の色相は、上塗りのご指定色に対してわずかに淡彩剤にずらした共色にて出荷いたします。

※上記の各数値は、すべて標準のもので、被塗物の形状・素地の状態・気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

※塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

※旧塗膜は健全な状態であることを想定しています。

※カタログに記載している内容は一般的な環境下での施工を想定して記載しております。特別な環境が想定される施工現場・部位に塗装される場合は、事前に必ず当社営業までご相談いただきますようお願いいたします。

施工上の要点と注意事項 ※詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにご確認ください。

1. 中塗りは必ず専用中塗りをご使用ください。2. 蓄熱されやすい建材(軽集モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など)を使用した(高断熱型外壁、旧塗膜が弾性リジンを有するタコ、アリッドトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が剥れていることがあります。そのまま塗ると剥れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の剥れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などに相談ください。3. つや調整品では、塗り磨きや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。4. 通利希釈剤をすくると本来のつやが弱まってしまうおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。5. つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、厚層、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違ってくる場合がありますので、事前に試し塗りを確認してください。6. つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かはんしながらご使用ください。7. 防塵・防かび効果は、塗膜を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理してから塗装してください。8. 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などにより、本来の低汚染機能が発揮されない場合があります。9. 塗膜を部分補修する際は、硬化剤を入れ忘れに注意してください。汚染むら発生の原因になります。10. 地盤下結露が発生するような用途、場所での使用は避けください。11. 蓄熱が発生する場所では、塗料中の水溶性成分が表面に溶出し、黄色い結露などとなって析出するおそれがあります。12. 蓄熱が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめします。11. 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨露露などが発生した場合、低温、高湿度、通風のない場合には、曇れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。12. 色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。13. 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。14. スプレーノズルの先端は、ときどき水洗いをしてください。作業効率の低下および塗むらの原因になります。15. 乾燥表面によっては塗膜表面に粘着することがあります。16. 反応硬化タイプの塗料のため、使用後の容器などはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった塗料は、すみやかにラッカーリナーで洗浄してください。17. 硬化剤は厳密に硬化しますので密着して貯蔵してください。18. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着障害をおさすおそれがあります。19. 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。20. 風化・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ1液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラー、ファインパーフェクトシーラーをご使用ください。21. シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。22. タイル面の塗料に使用する薬剤が塗装面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、この様な場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行ってください。23. 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケツ科科学社CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケツ科科学社H1500シリーズ: コンクリートレンジで測定した場合)の条件下で塗装してください。24. 表面のみ、ほこり、エプロンシヤス、レイタスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメント mortar で平準化してください。25. ALC面、多層下地、コンクリートブロック面など外部の素地において、異穴や障害などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材(ニッペ1液カチオンファインナー、ニッペ1液材#200)などで処理してください。(合成樹脂エリシオンパテの使用は避けてください)26. 内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。27. 素材にセメント成分などが使われている場合は、エプロンシヤスが発生するおそれがありますので溶剤系シーラーをご使用ください。28. 新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗材としてニッペ浸透性シーラー(新)、ニッペ1液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラー、ニッペファインパーフェクトシーラーをお使いください。29. 届出後放置する時は皮が張らないようにポリエチレンシートなどでシールし、保管してください。30. 塗装直後から頻繁に

人が触れるようなドアの一部や手すりなどで、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。31. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく(結露が考えられる場合、塗装は避けてください)。32. 塗料と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。33. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。34. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分にを行い、換気扇にしてください。35. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。36. シーリング面の塗装は、塗膜の汚染、はく離、吸割れなどの不具合を起すことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペアプライドオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、吸割れが起こることがあります。37. 塗料、天候など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、剥れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法を十分に配慮し、換気を促してください。38. 凍めずは隔べり力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。39. 上塗りに劣えたイロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に劣えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠れていきにくい場合があるため、事前に試験塗り工程をご確認ください。40. 上塗りは1回仕上げですので原則的に中塗りは共色で塗装してください。特に劣えたイロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は必ず中塗りを共色塗装してください。41. 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。42. 濃彩色や劣れた原色の場合、塗装を塗ることで色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性がある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触する箇所を使用する場合は、ファインシリコンパッキンクリヤーを上塗りに塗装してください。クリヤーローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や痛みが発生する場合は、スプレー塗装をしてください。43. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。44. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌質異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈剤を少なして塗装してください。45. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。46. 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。47. 汚れ、きずなどに塗り補修が必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。48. ローラーはけなどは、ほかの塗料での塗料に使用すると、はく離などが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でください。49. 可塑剤が多(含まれる塩ビ)樹脂板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、塩ビクロスなどへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。50. 平準仕上げや縦面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや異穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。51. 塗料は内容物が均一になるようかはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かはん機を用いて底層の沈降物を十分にかはんしてご使用ください。52. 封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷蔵所で保存し、速やかに使い切ってください。53. 大気中の浮遊成分が多い地域では、この成分が塗膜表面に付着し、塗膜が赤褐色に変色したように見える場合があります。54. 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を倒れないようにご注意ください。55. 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。56. 塗料、塗料容器、塗具等を廃棄する際には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗具などを洗浄した排水は、そのまま排水溝に流すこと環境に影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

■本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート(SDS)をご参照ください。■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

日本ペイント株式会社

北海道支店 ☎011-370-3101 近畿支店 ☎06-6455-9608
東北支店 ☎022-232-6711 中国支店 ☎082-281-2180
関東支店 ☎03-5479-3614 四国支店 ☎0877-56-2346
北関東支店 ☎03-5479-3614 九州支店 ☎092-751-9861
中部支店 ☎052-461-1960

- 本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本カタログの商品名、ロゴマークは、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- Copyright © 2023 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.com/jp/>

カタログNo.
NP-B113
AA231120T
2023年11月現在